

## 県政への反映状況（令和5年度開催 知事と一緒に生き活きトーク）

### 第1回：テーマ「企業や地域の支えで子育てと仕事の両立」（R5.7.7）

1 時差出勤や時間有給などの制度が整った環境があつてこそ、安心して働きながら子育てができる。

社長が、子育てに関わっている社員と定期的に意見交換をし、出た意見を採用してくれている。

→ 企業の子育て支援の取組状況には、経営者の意識や社風が大きく影響していることから、令和6年度は、経営者等がより前向きに子育て支援に取り組む意識を醸成するためのシンポジウムの開催や、取組が進んでいない企業を後押しするための優良事例集の作成やポータルサイト等による情報発信の横展開を図ることとしています。

経営者等の意識醸成推進事業 18,529 千円

企業版子育て支援情報展開事業 10,156 千円

2 男性育休の形のみ取得は、かえって奥さんの負担となるため必要ない。

→ 男性の積極的な育休取得と家事・育児参加をテーマとした講座やスキルアップセミナー等を実施しており、「形のみ育休」にならないよう、引き続きセミナー等を通じた意識改革に取り組んでまいります。

パパ・グランパ・グランマケアアップ事業 2,826 千円

3 子育てに関する取組をPRすることで会社にメリットがあるのであれば、子育て支援に積極的に取り組んでもらえるのではないかと。

近年、採用活動が厳しい状況にあり、子育て支援等、社員にメリットのある支援をしている企業に対して、行政からの何らかのメリットがほしい。

→ 子育て支援に取り組んでいる企業のさらなる取組の促進のため、令和6年度は「子育て応援アワード」を創設するとともに、アドバンス企業のメリットや情報発信の強化に取り組むこととしています。

子育て応援宣言企業等取組推進事業 16,150 千円

4 県が主催する合同企業説明会や就職面接会等に、優先的に参加できる制度がほしい。

→ アドバンス企業について、令和6年度から国（岡山労働局）や大学コンソーシアムとも連携を図りながら、合同企業説明会や就活フェア等での周知・啓発の強化や、学生への制度の認知度向上に取り組むこととしています。

子育て応援宣言企業等取組推進事業 16,150 千円

## 第2回：テーマ「若い力で離島を元気に！」（R5.10.10）

5 離島において、人口減少と高齢化の進展により担い手不足が深刻化しているため、何らかの取組が必要である。

→ 令和6年度から、離島における持続可能な地域の形成に向けて、地域の担い手確保につながる取組を進める予定です。

離島の担い手確保モデル事業 2,500 千円

## 第3回：テーマ「首都圏から見る岡山県の魅力

～首都圏企業から見た地方に必要な条件とは～」（R5.11.10）

6 公営の工業団地を造ってほしい。

→ 市町村の産業用地の開発を支援しています。

市町村営団地開発支援事業 332,917 千円

## 第4回：テーマ「地域ぐるみで子育て支援

～子育てカレッジの取組を通して～」（R5.11.16）

7 子育てカレッジについて、他の保護者にも伝えていきたい。若い人に伝わる情報発信が必要である。

→ 子育てカレッジを始め、様々な子育て支援情報を発信するため、従前のフェイスブックに加え、令和6年度に新たにインスタグラムを開設しました。

8 育児に関わる父親がクローズアップされているが、「形だけの育休」は困るという母親もいる。父親になる前の準備教育や父親が参加できるプログラムも必要である。

→ 「形だけの育休」とならないよう、新たに父親になる方等を対象に、男性育休の取得促進を図る研修会を実施することとしています。

パパ・グランパ・グランマケアアップ事業 2,826 千円

#### **第5回：テーマ「みまさかの医療と看護を考える～看護職の確保～」 (R5.11.24)**

9 小中学生に対して、看護職のやりがいや楽しさなど、看護職の魅力を伝えることが必要ではないか。

→ 小・中・高校に出向いて看護職の魅力等を伝える「出前！看護職体験」を、令和6年度からは岡山県看護協会ともタイアップして実施するとともに、市町教育委員会等へ出向き、積極的に周知することとしています。

地域医療連携体制推進事業 38千円

#### **第6回：テーマ「美しく豊かな瀬戸内海を次世代へ」 (R6.1.11)**

10 ごみが海に流出する前に、陸域、河川等で効率的、効果的に回収していく必要がある。

→ 令和4年度から、身近な河川等での回収が重要であると考え、地域における自発的・継続的な回収活動のモデルづくりを進めているところですが、公民館を中心に周辺地域（学校・町内会）と連携して実施する取り組みが効果的であることから、このような取り組みを県内に広げてまいります。

河川ごみ回収・発生抑制モデル地区拡大事業 2,400千円

11 子どもの頃からの環境学習により、ごみを捨てない、拾うのが当たり前ということを広めていくのが良い。

→ 県内の小中学校における海ごみ教育の取組状況を把握し、必要に応じて啓発資料を作成するなど、小中学生向けの出前授業やエコツアー等の充実を図ってまいります。

12 底曳き網漁で混獲したごみを海に戻すのではなく、持って帰るのが当たり前になってほしい。

→ 令和6年度から、漁業操業時に混獲したごみの持ち帰りの習慣化を目的に、底曳網漁業者による海底ごみ回収の効果検証を行うモデル事業を実施することとしています。

海底ごみ回収モデル事業 8,760千円

13 クロダイの美味しさを知ってほしい。

→ クロダイを材料とした加工品開発への支援や学校給食へのクロダイの提供等を実施し、消費拡大及び認知度向上を図ってまいります。

チヌ（クロダイ）の消費拡大対策事業 5,000千円

## 第7回：テーマ「地域とともにある学校づくり

### ～新たな学校種 義務教育学校 旭学園の取組～（R6.1.24）

14 人事異動で地域外から赴任している教員が多いため、地域の方の願いをしっかりと聞いて取り組んでいくことが大切である。

各地域の地域学校協働活動推進員が、どのように役割を認識し、教員や地域の方たちと話しができるかによって違いがでる。

→ 各市町村におけるコミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進の取組を支援するため、アドバイザーの派遣等を行ってまいります。

地域学校協働活動推進事業 5,662千円